

ご挨拶



社会教育課程は、学校以外の「ひとづくり」と「まちづくり」の中核となる人材育成を目指し、創造的な学びと世代を越えた多様な貢献活動（正課・正課外）を展開しています。

2020年度から大幅なカリキュラム改定を行い、「社会教育主事」の任用資格に加え、「社会教育士」（称号）もダブルで付与できるようになりました。2021年度よりみなとみらいキャンパスも開学し、現在2キャンパス運営体制で社会教育課程（13科目26単位）を実施しています。2021年10月現在、社会教育課程に本登録している学生は58名（うち横浜48名、みなとみらい10名）。仮登録の学生は152名となり、本課程への関心も高まりつつあります。しかし、学校教育に比べ「社会教育」の知名度は低いため、

社会教育課程は、若い学生にとってイメージし難い領域です。そのため、本課程は、常に情報発信し続けることを怠ってはなりません。それが、学びを続けることを応援する課程の役割なのです。

2020年度より、本学では、全学教養課程センターにて「生涯学習論」（半期）が必修科目として位置付けられました。「生涯学習論」が3キャンパスで計6科目も実施されています。多くの学生が、「生涯学習」を学ぶことで、生涯学び続ける意義はもとより、年齢、性別、国籍、経済事情、障害の有無などに寄らない学びは、多様性を理解することにつながります。

それは、SDGsと深くかかわっています。SDGsとは「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」を指します。2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として採択されました。SDGsは「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、2030年までに17の国際目標を掲げたものです。このうち、社会教育課程と関連するフェーズも多いのです。とりわけ、目標4「教育」では「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ことが明記されていることは注目に値するでしょう。

今後も、社会教育課程は、多様な人々に対しても意図的に学べる社会貢献型体験学習の場を提供し続けます。本ニュースレターは、2021年前期（4月～7月）までの本課程での授業内外の活動一端を記録したものです。社会教育課程には、社会教育の現場の第一線で働く実務家教員が講師となり、学生も多くの刺激を受けています。これからも学生たちに寄り添い、学生の声に耳を傾けながら、ユニークな授業開発を続けていきたいと思えます。

あらゆる現場で学生たちがお世話になり、本当にありがとうございます。

引き続き、ご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

神奈川大学 資格教育課程センター（社会教育課程）

人間科学部人間科学科 教授 齊藤ゆか

<目次>

■実践報告（2021年度前期）

「地域デザインII（YC）」（川崎市子ども夢パーク実習）	2
「地域デザインIV（MMC）」（おだわらスタディツアー）	4
「地域デザインIV（YC）」（かながわユースフォーラム2021）	6

■コラム

地域づくりに求められる「ソーシャルコーディネーター」	8
----------------------------	---

■教員紹介

社会教育課程の講師陣	9
------------	---

■社会教育に関する科目	11
-------------	----

川崎市子ども夢パーク実習

開催日時：2021年6月19日（土）～7月18日（日）うち9日間開

催場所：川崎市子ども夢パーク・フリースペース「えん」

参加人数：29名

担当教員：西野博之 非常勤講師

地域デザイン演習Ⅱ（担当教員：西野博之非常勤講師）履修者29名の実習が、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、9日間に分散して行われました。

○目的

プレーパーク（冒険遊び場）の運営現場での実習を通し、多様な他者との出会い、リアルな体験活動を行うことによって、困難な課題に向き合える実践力を育みます。様々な背景を抱える子どもたちとの直接的な関わりを通じて、子どもの気持ちの受け止め方を学び、子どもが発する「試し行動」に、どのように向き合い、コミュニケーションを図っていけるようになるかを学びます。

○場所

「川崎市子ども夢パーク」「フリースペースえん」

〒213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延5丁目30-1

<https://www.yumepark.net/> <https://www.tamariba.org/>

○日程

実習場所	日程	参加者数	実習内容
夢パーク	6月19日（土）	2名	子どもたちと共に遊具を作成し、最終日に一緒に遊ぶ。
	7月3日（土）	大雨警報につき、中止	
	7月16日（金）	16名	
	7月17日（土）	15名	
	7月18日（日）	12名	
えん	6月21日（月）	2名	不登校児童のフリースペースで子どもと過ごす。
	6月25日（金）	2名	
	6月28日（月）	3名	
	6月30日（水）	2名	

○当日の様子

7月16日（金）～18日（日）まで集中的に行われた「夢パーク」では、コロナ対策で子どもたちの遊び場を分散させるための遊具づくりを行いました。まず、ウォータースライダー作成のための穴掘りから始まり、実際に子どもたちが安全に滑ることができるまでの配慮等を考えながら、ウォータースライダーを設営しました。また、巨大滑り台では、黒板の設置、滑り台の強度を上げるための筋交いの貼り付けを行いました。「子どもたちから自由に遊べる場所を奪わないために、安全管理をしっかりと行う必要がある」というスタッフが見守るなか、どこにどのように設置したら、子どもたちが安全に楽しく遊べるかを考え、長さを測り、ノコギリで板を切断し、インパクトでネジ打ちをする、という工程を、慣れない手つきながら、やり遂げました。

そのあとは、子どもたちと真剣に遊びました。ウォータースライダー、泥合戦、ドラム缶風呂…。「おとなが真剣に遊ぶことで、子どもたちも思いっきり遊ぶことができる」という西野非常勤講師の教えを体現していました。コロナ対策、熱中症対策など、自身の体調にも気を遣いながら、スタッフ、来場者、施設全体に目を配ることで、多くのことを学ぶことができました。



〈ドラム缶風呂 まだ冷たい！〉

初対面の自分を子供たちが輪の中に簡単にに入れてくれるのがとても嬉しかったです。今日はとにかく楽しみました。やりきった感じがするほどなので自分的には満足のいくら実習になったと思います。(I.D.)

2年ぶりの夢パークでしたが、今回も思いっきり楽しみました。親子連れの様子を見ていた時、泥や水でこんなにも自由に遊べる場は、子供たちにとってとてもいい環境だと感じました。また、子供たちのことを1番に考えていたり、近すぎず遠すぎず見守っていたり、スタッフの方のすごさを身近に見ることができました。明日も頑張ります。(S.T.)



〈温かくなったかな？〉

昨日は穴掘りや石拾いなどがメインでしたが今日は工具を使っている作業が多かったので初めて使う道具もあり、難しかったです。夢パークに来る子どもの中にもひたすら外で動き回る子どもいれば1つの事に熱中した取り組む子どもいて様々な性格の子どもが集まっているんだなと思いました。(S.Y.)

今回の実習では、前回の実習よりも子どもと関わることができました。また、ウォータースライダー作りなどの準備(なかなか様になってる!)とても楽しかったです。大人も子どもも関係なく、全力で遊べる場所の大切さを実感しました。(Y.T.)



〈共同作業、楽しい！〉

昨日と今日で夢パーク実習をして、改めて子どものエネルギーの凄さを感じました。昨日来てた子どもも今日すごい楽しんでいて、こんなに夢中になれる場所があって良いなと感じました。また、こんなに自由に遊べて夢中になれる夢パークが子どもたちにとっての居場所なのかなと思いました。2日間で日焼けと筋肉痛が凄かったけれどとにかく楽しかったです。(K.T.)



〈実習終了 最後の3日間は猛暑でした〉

2日連続での夢パークでしたが、両日は全く毛色の違う体験ができました。昨日はサッカー、本日は、ウォータースライダーと泥遊びです。

ウォータースライダーの中で、滑る順番を子供達優先にしていたのですが、とらさんに、大学生も順番の中に入ってるんだよと言われたことでハッとしました。順番を守るという力を遊びの中で育てるには、子供たちだけを優先的に滑らせるのは必ずしも良いことではないことに気がつきました。(O.Y.)



〈滑り心地、最高！〉

おだわらスタディツアー

開催日時：2021年6月6日（土）

開催場所：小田原市中心街

参加人数：11名（うち任意参加4名）

担当教員：加藤憲一 非常勤講師



【概要】

- ・社会教育の意義である「人づくり・まちづくり・絆づくり」を、地域の実情の中でどのように実現・具体化していくかについて、典型的な地方都市である小田原市の旧市街地エリアをフィールドとして踏査し、考察する。
- ・地域がもつ可能性（地域資源）と課題の双方を多角的に確認していくと共に、主要なポイントにおいては様々な活動を行っている皆さんにヒアリングを行う。それらを素材として、授業後半で小田原の皆さんと実施する協働事業への仮説をデザインする。

【行程】

集合 小田原駅東口

- ① 小田原市における市民活動や地域経済活動振興のための新たな拠点各所で担当者にヒアリング
（ミナカ：総支配人・高橋氏、市民交流センターUMECO：市民活動を応援する会・椎野氏）
- ② ミナカ屋上から小田原のまちを俯瞰、まちの構造を確認
- ③ 市民の芸術創造の拠点となる新市民ホール
- ② 小田原の中心をなしてきた国指定史跡小田原城跡（馬出門～銅門～常盤木門～天守閣）
- ③ 小田原が生んだ偉人である二宮尊徳を祀る報徳二宮神社で報徳仕法につきヒアリング（草山宮司）
- ④ 明治・大正期に政財界の元勳たちが好んで住んだ小田原の代表的な邸園（清閑亭）、施設管理運営者から活用方策等についてヒアリング（小田原まちづくり応援団・渡辺氏）
- ⑤ 水産なりわいが連なる「かまぼこ通り」視察
 - ・漁師町ならではの山車小屋、この地域の鎮守である松原神社
 - ・かつての花街・宮小路地区の現状（空き店舗や再開発、一方で若者の新規出店など）
 - ・小田原の代表的な水産なりわい「ひもの」の工房（早瀬ひもの店）、店主にヒアリング（早瀬氏）
 - ・小田原の海岸、海に近い公園、川崎長太郎が住んでいた小屋跡
 - ・新たな出店者（こめこめこ）、老舗鯉節店（籠常）、老舗蒲鉾店（籠清）など
 - ・終戦の日に受けた空襲の記録展示（旧古清水旅館資料室）
 - ・明治天皇行在所跡
 - ・新たな居住スタイルである ADDRESS
- ⑥ なりわい交流館にて、ヒアリング及び意見交換
 - ・田代守孝氏（かまぼこ通り活性化協議会リーダー・うろこき蒲鉾）
 - 平井丈夫氏（小田原まちセッションズ代表）
 - 竹田将俊氏（万年地区青年連合会会長）、小高誠仁氏（同副会長）
 - ・道中の商店街の様子などを視認しつつ、小田原駅東口へ（ハルネ小田原：小田原市商業振興課 渡辺係長）

解散 小田原駅東口



〈なりわい交流館にて意見交換〉

かながわユースフォーラム 2021

開催日時：2021年6月26日（土）

開催場所：オンライン開催

参加人数：162名（運営30名・運営協力9名・当日協力4名・当日参加119名）

担当教員：長浜洋二 非常勤講師

○テーマ

若者と歩く地域の未来

○解決したい地域課題

1. 地域内で起きている様々な問題を敏感に捉え、行動する若者が少ないという課題
2. 新型コロナウイルス蔓延による影響により、学生と地域の交流・連携が弱まっているという課題
3. 地域活動に関心はあるが、一方で参加する機会が少ない学生が多いという課題
4. 地域での活動に関して、若者の求める情報が足りていないという課題
5. 様々な地域での活動経験や、新しい出会いを求める若者が多いという課題

○事業の目的

本事業は、地域との交流が減った若者（ユース）を対象に、コロナ禍における地域の課題を探り、若者と地域の「希望」を見出すことを主な目的とする。

特徴は、学生を主体（若者による若者のため）の参画型交流事業である。

○事業の内容（予定 コロナ禍で変更あり）

「若者と歩く地域の未来」をテーマに5つのステップで実践していく。

Step 1 コロナ禍における地域と若者の課題を出し合う（4月/授業）

Step 2 地域を歩きながら課題を共有し合う（歩く・交流）（5月～6月/自主）

Step 3 コロナ禍でも若者ができる地域実践を探る（6月末～7月上旬/イベント）

Step 4 若者と地域の「希望」を見い出す（同上）

Step 5 若者が地域でボランティア活動を始める（夏以降～）

○学生の参画メンバー

学生代表：高久李美（神大3年）、副代表：土屋孝太（神大3年）、3年：17名、2年：2名、4年：9名

○大人のアドバイザー

実行委員長：齊藤ゆか（神大教授）

全体ディレクター：長浜洋二（モジョコンサルティング合同会社代表） 他、多数。（敬称略）

○主催団体：かながわユースフォーラム実行委員会

○協力団体

社会福祉法人 神奈川区社会福祉協議会

片倉三枚地域ケアプラザ・六角橋地域ケアプラザ

三枚地区社会福祉協議会

六角橋商店街連合会

NPO 法人アクションポート横浜 ふれあいっこ三ツ沢

横浜市神奈川区役所

神奈川大学社会連携センター 資格教育課程

○タイムスケジュール

全大会 9：40～10：30

分科会 10：40～11：40

リフレクション 10：50～12：30



〈4年生からのサプライズ表彰式〉



タウンニュース神奈川版 2021年7月8日号

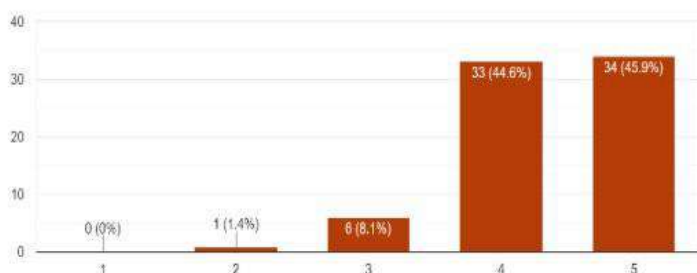


タウンニュース神奈川版 2021年7月1日号

アンケート結果

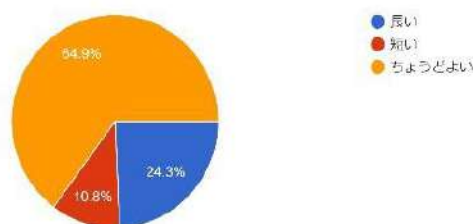
フォーラム全体の満足度について教えてください

74件の回答



フォーラム（約3時間）の時間設定はいかがでしたか？

74件の回答



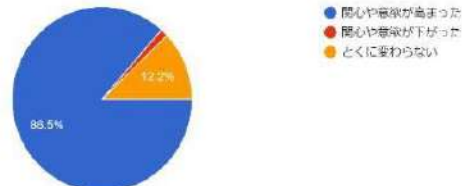
参加した「分科会」を教えてください

74件の回答



フォーラムに参加して、ボランティアに対する関心や、やってみようという意欲は高まりましたか？

74件の回答



【参加者の声】

- ・オンライン上ではあったが自分と同年の人と交流できたり、普段聞けないような話をたくさん聞くことができた！！
- ・コロナ禍でもたくさんの学生さんの意見や価値観を知ることができる場を作っていただいて、またそのおかげで自分も何かできることからやってみようという気持ちになれたので、今回このユースフォーラムに参加できたことをうれしく思います。
- ・とても有意義な時間を過ごせたと思います。緊張感無く取り組めるようにしてくださって楽しく参加することができました。
- ・ゲストスピーカーの方が私自身とそこまで年齢も変わらないにもかかわらず、コロナ禍のなか、課題に追われながら、自らボランティアに参加していることに凄いなと感じました。また、私も自分から積極的に行動できる人になりたいと思いました。

【コラム】

地域づくりに求められる「ソーシャル・コーディネーター」



地域デザイン演習Ⅳ
(ユースフォーラム担当)
長浜 洋二

VUCA*の時代を迎え、今や社会は、単独の組織や個人ではなく多様な主体による協働でなければ解決できない課題であふれかえっています。新型コロナウイルス感染症にみるように、こうした課題は予測ができない、これまでの解決策が通用しない、問題の把握が難しい、関係者間で見解がずれる、利害対立が大きいといった特徴があり、合意をつくりながら解決に向かっていくことが非常に難しいというのが実態です。

*Volatility[変動性]、Uncertainty[不確実性]、Complexity[複雑性]、Ambiguity[曖昧性]

地域づくりにおいても、それが地域課題の解決であれ、新しい魅力の創出であれ、多様な主体による協働が求められています。協働の推進には“プレイヤー”とそれを支援する“サポーター”が必要ですが、プレイヤーは高齢者や障がい者、子どもなど、特定の受益者に対して直接サービスを提供する一方、サポーターは制度づくりから組織運営ノウハウの提供まで、プレイヤーを様々なかたちで支援する役割を負っています。地域では行政や社会福祉協議会、市民活動支援センター、大学のボランティアセンターなどがこれに該当します。

「ソーシャル・コーディネーター (Social Coordinator)」とは、主にサポーターの立場で活動する人や組織を指しますが、地域における人材や組織、物品や場所、お金から、産業、名産品、観光名所、自然、文化・歴史などまで幅広く社会資源を把握するとともに、必要に応じてそれらをつなぎ合わせたり、関係者間で発生する様々な利害調整を行いながら地域づくりを推進する役割が期待されています。

地域には、自治会・町内会などの地縁組織、NPO や市民団体などのテーマ型組織、福祉団体、教育機関、行政、企業、ソーシャルビジネス、メディアなどの多様なプレイヤーが既に存在していますが、現状、これらの主体が有機的につながっているとはいえません。実際には各主体がそれぞれの都合や立場から主張を行うにとどまり、既存のメンタルモデル（思い込みや暗黙

の前提）や従来の関係性を超えた取り組みに発展していくのは至難の業です。ソーシャル・コーディネーターはこうした状況を打開すべく、関係者同士の対話の場をファシリテートしながら、実態把握と共有、課題の構造分析、関係者の整理、目指すビジョンやゴールの設定、関係者間のコミュニケーションの維持・深化など、地域づくりにおける様々な協働事業の推進を支援していきます。

2年目となる「かながわユースフォーラム」は、子ども、高齢者、ジェンダー、祭り、商店街という5つの地域・社会課題の解決に向けて、社会資源の一つである学生と大学がどのように関わることができるかを模索するコーディネート機能を意図したイベントです。神奈川大学生を中心とした実行委員会は、3年生がプレイヤーを、4年生がサポーターの役割をそれぞれ担いましたが、1年ごとに違う役割を経験することでコーディネートを行う際に不可欠なプレイヤーの視点や想いを体験することができました。フォーラムが単なる若者による一過性のイベントではなく、その企画・実行をつうじて個人的な成長も遂げながら、ソーシャル・コーディネーターとしての資質を磨く場として今後さらにプログラムを改善していきたいと考えています。



社会教育課程の講師陣 (五十音順)

磯田浩司

地域デザイン演習Ⅰ



(特非) グッド代表

大学卒業後、一般企業就職を経て国際 NGO 活動や日本国内での NPO、ボランティア活動に数多く参加。1998 年より、大分県竹田市にある全校生徒 300 人中 200 人が元不登校という高校での住み込みボランティアを行う。その生徒たちとの出会いが契機となり、2001 年 1 月 不登校・ひきこもり経験者を含む全ての若者を対象にきっかけづくりの活動を行う任意団体、グッド設立。2008 年 11 月 NPO 法人化／代表理事就任。ワークキャンプ、フリースペース、共同生活寮の運営を行う。

市川享子

ボランティア論



東海大学健康学部講師

中学・高等学校の社会科教諭、明治学院大学ボランティアセンターのコーディネーターを経て、現職。
少子高齢化、孤立が進むなかで、人々の新しいつながりの生成について、市民学習、社会参画、サービス・ラーニング論の視点から研究を行う。ボランティアには新しいつながりの生成と同時に、現代社会をクリティカルな視点で捉え、行動に起こすこともときには大切と考え、この授業がこうした気づきと行動のきっかけとなれば嬉しく思っている。

加藤憲一

地域デザイン演習Ⅳ/社会教育経営論Ⅰ



前小田原市長

1964 年、小田原市生まれ。京都大学法学部卒業。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、自然農、商業ビル企画管理、地域シンクタンクなどを経て、2008 年に第 20 代小田原市長に就任。以後、3 期 12 年を務める。2020 年 5 月に退任後、神奈川大学非常勤講師のほか、小田原柑橘倶楽部取締役、星槎大学特任教授などを務める傍ら、小田原で耕作放棄地開拓や農業、多彩な実践者たちのネットワークづくりなどに取り組みながら、市長時代以来のライフワークである「持続可能な地域社会」の実現を目指している。

倉岡正高

生涯学習支援論Ⅱ



東京都健康長寿医療センター研究所研究員

高齢者の介護予防・フレイル予防、社会参加活動、世代間交流などについて研究。横浜市在住で、これまで自治会長、PTA 会長、学校支援コーディネーター、学校運営協議会会長などを経験。NPO 法人日本世代間交流協会理事。著書に、「コーディネーター必携シニアボランティアハンドブック (2016)」、「保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門 (2021)」

近藤真司

社会教育論・生涯学習論



雑誌「社会教育」編集長

1959 年東京都杉並区生まれ（以後現在まで杉並区在住）。大学卒業後、走る仲間のスポーツマガジン（株）「ランナーズ」入社。雑誌「ランナーズ」「トライアスロンジャパン」2 度めのハワイの人のための「ハワイマガジン」などに携わる。同社マラソンイベントサポートの「RECS」事業部にてスポーツによるまちづくり、地域活性化をサポート（福岡シティマラソン、浦安ハーフマラソンなど多数）。1991 年（財）全日本社会教育連合会 雑誌「社会教育」編集に携わる。1996 年 7 月より編集長。現在（一財）日本青年館 雑誌「社会教育」編集長。＊取材活動などを通して社会教育にかかわること 30 年、360 冊を刊行。

左京泰明

地域デザイン演習Ⅲ/社会教育経営論Ⅰ



(特非) シブヤ大学 代表理事

(一社) マネージング・ノンプロフィット 代表理事

1979 年福岡県中間市出身。早稲田大学第二文学部卒業後、住友商事株式会社入社。

2005 年に退社後、2006 年渋谷の街をまるごとキャンパスに見立てた地域密着型の新しい生涯学習の仕組みとして、(特非) シブヤ大学を設立。2020 年度からは新しい学長を中心とした体制へ移行、代表理事として経営支援を通じた事業承継に取り組む一方で、渋谷区内で活動する高齢者福祉、障がい者福祉、子どもの遊び場づくり等、複数の NPO の運営に「伴走」しながら、都市における人のつながりやコミュニティづくりについて実践的に取り組んでいる。

笹井宏益

生涯学習論



玉川大学特任教授

これまで、人生の前半の 17 年間を行政機関で、後半の 17 年間を教育研究機関で勤務。こうした経験を活かして、これからの時代を生き抜くことができる、理論と実践力の両方を身につけた Lifelong Learner（ライフロング・ラーナー）を育てていきたいと思っている。それゆえ、この科目では、実践的な知見を身につけてもらうための学習が中心になり、伝統的な理論の説明に加えて、SDGs などの課題論やジェンダー平等論、多文化共生論、居場所論、子育て支援論などを積極的に取り上げていく。

澤岡詩野

生涯学習支援論Ⅱ



（公財）ダイヤ高齢社会研究財団
研究部主任研究員

武蔵工業大学卒業、東京工業大学大学院博士後期課程修了、東京理科大学助手を経て、2007 年より現職。専門は豊かに歳を重ねるための社会とのつながりのあり方を追求する「老年社会学」。特に、つながりが弱くなりつつある都市部で、ゆるやかなつながりのあり方、地域コミュニティへの関わりを研究している。アンケートやインタビューから得られたデータ分析だけではなく、実際に家庭や職場につぐ第三の居場所づくりにプレイヤーとして関わっている。

高城芳之

地域デザイン演習Ⅲ



（特非）アクションポート横浜
代表理事

大学時代から「若者と地域をつなぐ場づくり」をテーマに活動をはじめ、新卒で NPO の世界に飛び込む。NPO では学生のボランティアマネジメントを始め、企業の CSR 相談事業、プロボノ支援事業などを企画運営してきた。担当の授業ではみなとみらいキャンパス周辺の NPO やまちづくりの現場に訪問して理解を深めていく。

長浜洋二

地域デザイン演習Ⅳ/社会教育経営論Ⅱ



モジョコンサルティング（同）代表
1969 年山口県生まれ。米国ピッツバーグ大学公共政策大学院卒。NTT、マツダ、富士通で約 15 年にわたりマーケティング業務に従事。2018 年にモジョコンサルティング合同会社を設立し、社会課題の解

決と新しい価値の創造に取り組む人や組織、地域に対して、事業開発（事業計画/戦略の策定と実行）と組織開発（コーチング/ファシリテーション）のコンサルティング支援、及び地域における多様な主体の協働推進（エコシステムづくり）を行っている。

西野博之

生涯学習支援論Ⅰ/地域デザイン演習Ⅱ



（特非）フリースペースたまりば
理事長・川崎市子ども夢パーク／
フリースペースえん／川崎若者就
労・生活自立支援センター「ブリュッ
ケ」／コミュニティスペースえんくる
各事業総合アドバイザー

1986 年より不登校児童・生徒や高校中退した若者の居場所づくりにかかわる。1991 年川崎市高津区にフリースペースたまりばを開設。不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、様々な障がいのあるひとたちとともに地域で育ちあう場を続けている。2003 年オープンの川崎市子ども夢パーク内に、川崎市の委託で公設民営の不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」を開設、代表に就任。2006 年、川崎市子ども夢パークの所長に就任。現在は総合アドバイザー。

秦野玲子

社会教育論/生涯学習論



RE Learning 代表

元社会教育主事。公民館と生涯学習課にて勤務した後、学び直しのために退職して大学院に進学。教育学研究科カリキュラム開発専攻修了。現在は、参加型学習のプログラムやアクティビティの研究開発と実践による、おとなの学びの支援が主な活動で、生涯学習ボランティア養成講座、子育て支援者養成講座、家庭教育学級、社会教育職員研修、教職員向け人権研修などの講師・ファシリテーターを務める。令和 2 年度より相模原市社会教育委員。

法令上の科目名	授業科目	担当教員	年次	単位	開講期	キャンパス	大学の修了要件 単位数		必修選択
生涯学習概論	■生涯学習論	齊藤ゆか	1～4	2	前期	横浜	4		必修
		前期			みなとみらい				
		前期			湘南ひらつか				
		後期			横浜				
		後期			みなとみらい				
	社会教育論	近藤真司	1	2	後期	横浜			
	秦野玲子	前期			みなとみらい				
生涯学習支援論	生涯学習支援論Ⅰ	西野博之	2	2	前期	横浜	4		
			後期		みなとみらい				
	生涯学習支援論Ⅱ	倉岡正高	2	2	後期	横浜			
		澤岡詩野			前期	みなとみらい			
社会教育経営論	社会教育経営論Ⅰ	左京泰明	2	2	後期	横浜	4		
	加藤憲一	前期			みなとみらい				
	社会教育経営論Ⅱ	長浜洋二	3	2	前期	横浜			
社会教育特講	地域デザイン演習Ⅰ	磯田浩司	1	2	後期	横浜・ みなとみらい	4 以上	26	選択必修
		齊藤ゆか							
	地域デザイン演習Ⅱ	西野博之	2	2	前期	横浜			
	後期	みなとみらい							
	地域デザイン演習Ⅲ	左京泰明	2	2	後期	横浜			
		高城芳之			後期	みなとみらい			
	地域デザイン演習Ⅳ	長浜洋二	3	2	前期	横浜			
		加藤憲一			後期	みなとみらい			
	■ボランティア論	市川享子	1～4	2	前期	横浜			
					後期	みなとみらい			
●教育原論	教職課程教員	1	2	前期・後期		4 以上			
●教育と社会		1	2	全キャンパス					
▲博物館概論	角南聡一郎	2	2	前期	横浜・ みなとみらい				
▲博物館教育論	菊池健策	2	2	前期	横浜				
				後期	みなとみらい				
社会教育実習	社会教育実習Ⅰ	齊藤ゆか	3	2	前期	横浜	2	4	必修
社会教育演習、社会教育実習、 および社会教育課題研究	社会教育実習Ⅱ	齊藤ゆか	3	2	後期	横浜			
	社会教育演習	齊藤ゆか	3	2	後期	横浜			

1. 合計26単位以上を修得すること。

2. ●印は教職課程の科目、▲印は学芸員課程の科目、■印は共通教養科目であることを示す。

社会教育課程 専任教員・地域コーディネーター

【専任教員】

☆齊藤 ゆか (神奈川大学 人間科学部教授)

博士 (学術)。専門は、生涯教育学、福祉教育・ボランティア学、生活経営学ほか。2016 年より神奈川大学着任。主な関心は、世代を超えた人がつながる仕組み、生涯にわたる学びと成長など。著書は、『ボランティア活動とプロダクティブ・エイジング』(ミネルヴァ書房)、『実践事例にみるひと・まちづくり』(ミネルヴァ書房)、『創年のススメ』(ぎょうせい)、『福祉社会における生活・労働・教育』(明石書店) ほか多数。

【地域コーディネーター】

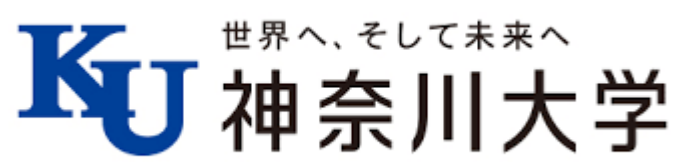
☆益田 麻衣子

(小田原市教育委員) (NPO 法人こころみ理事長)
大妻女子大学家政学部児童学科卒業。子育て中に小田原市 PTA 連絡協議会長、小田原市社会教育委員、小田原市図書館協議会委員、市民活動推進委員等を務める。2021 年 4 月より当職。

☆山崎 未玖

(コサイエ施設長)

聖徳大学人文学部生涯教育文化学科卒業。公益財団法人川崎市生涯学習財団にて広報業務に従事、その後 UDS 株式会社に入社し、放課後健全育成事業の運営と広報を担当。2021 年 4 月より当職。



2021 年 12 月発行

発行：神奈川大学社会教育課程 横浜キャンパス

神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1

編集：神奈川大学社会教育課程 齊藤ゆか

地域コーディネーター 益田麻衣子・山崎未玖

※本書の無断転載を禁じます。